

シャンティ国際ボランティア会
年次報告書 **2016**

シャンティ 2017年6月1日発行 増刊 通巻290号
1985年6月28日第三種郵便物許可 ISSN1343-4748

本之力を、生きる力に。



公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会

Shanti Volunteer Association

©Yoshifumi Kawabata



奨学金授与式にて（右：オラタイさん） ©Masao Seto



設立 35 周年記念イベントにて（2016 年 12 月 10 日）

図書館は、貧困という日常から 抜け出せる聖域でした。

タイ外務省の一等書記官として活躍するオラタイ・プープンラブ・グナシーランさん。首相からの指名で通訳を務めるなど、ロシア語の専門家として高い評価を受けるオラタイさんですが、幼い頃は教育も満足に受けられない貧しい環境で育ちました。狭い路地に板張りの家々がひしめくスアンプルー・スラム。バンコクの中心に位置する最貧困地区です。

タイ東北部のイサーンからやってきた両親は、文字を読むことも書くこともできませんでした。父親は港で日雇い労働を、母親は屋台でパパイヤサラダを売って生計を立てますが、やがて父親がお酒に溺れるようになると、暴力をふるい、母親と激しいケンカを繰り返すようになります。両親の怒声に怯える、幼かった

オラタイさん。そんな彼女を救ったのが、自宅近くにできた図書館でした。

図書館には、絵本、小説、旅行記、偉人伝など数千冊の本が収められています。特に夢中になったのが旅行記。ページをめくれば、パリ、ニューヨーク、モスクワなど世界中の写真が次々と現れます。「自分もいつかこのスラムを抜け出して、世界を見てみたい」。図書館にあるすべての本を読破したオラタイさんは、奨学金を得て国立大学へ進学し、ロシアの大学院を卒業し、外交官になる夢を果たします。両親のケンカから逃げるようになつた図書館は、いつしかオラタイさんの夢を、逆境に負けない不屈の精神を育むかけがえのない場所になっていったのです。

人々の生活を変える本の力が、 私に夢を与えてくれました。

ニュースキャスター、ジャーナリスト、子ども番組の司会者など、ラオスのメディアで幅広く活躍するスニター・ピンマソンさん。恥ずかしがり屋だった彼女が、人前で話す仕事を志すようになったのは、子ども図書館との出会いがきっかけだったといいます。

「なぜこれほど多くの人が子ども図書館に集まるのか。その理由を知りたくて図書館を訪れました」と話すスニターさん。本を家に持ち帰れる、友だちができる、楽しい行事がたくさんある。そんな子ども図書館の魅力に引かれ、足しげく通うスニターさんがもっとも心惹かれたのは、図書館の先生による「読み聞かせ」でした。スニターさんはやがて自分自身が子どもたちに読み聞かせをするようになり、本を読む力だけでな

く、話をする力も身につけていきます。

「図書館は本を読めるだけでなく、さまざまな行事や活動など、人々の生活をよりよい方向に変えるもの、子どもの才能を掘り起こすものがたくさんそろっています。アナウンサー、レポーターそしてラジオの DJ にさえなれると私に教えてくれたのは、ほかでもない図書館なのです」。

ニュース原稿を読むだけでなく、DJ として 10 代の若者にメッセージを届けたり、ラオスの伝統料理を紹介するレポーターの仕事も精力的にこなすスニターさんは、図書館への愛をこう語ります。「図書館は私に多くの出会いと知識を与えてくれました。私の人生にすばらしい機会を授けてくれて本当にありがとう」。

シャンティの目指す姿と活動

共に生き、共に学ぶ。

世界には、紛争、貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会をつくりたい。シャンティは、人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していく NGO となります。

シャンティの使命

Mission — ミッション

人間の尊厳と多様性を尊び、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会を実現します。

シャンティが目指す姿

Vision — ヴィジョン

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していく NGO となります。

シャンティの基本姿勢

Value — ヴァリュー

- 1 苦難の中にいる人々と、痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます。
- 2 地域の伝統的な文化を重視し、民族、宗教、言語の違いを尊重します。
- 3 人々が自ら気づき、行動し、自立へと向かう開発を重視します。
- 4 互いに支えあい、高めあうための触媒としての役割を果たします。



© Yoshifumi Kawabata

活動国の人々と共に、子どもたちが安心して学べる環境をつくる。

安心して学ぶことができる場所、学ぶための本、子どもに正しい学びを伝える人。どれが欠けても子どもたちが安心して学べる環境はつくれません。

シャンティは、この環境づくりを活動の3本柱とし、現地の行政や住民と一体となって継続した教育支援活動をしています。



シャンティが行う活動の3つの柱とステークホルダー



シャンティの活動地域

■ シャンティ、35年間のあゆみ



35年間の活動実績



実績1

絵本出版／436タイトル
届けた絵本／257,208冊
図書館利用者／1,157万人



実績2

研修参加者／28,702人



実績3

学校建設／361校
図書館・図書室設置／807館



実績4

緊急救援出動回数／63回
(海外39回、国内24回)

ごあいさつ

会長 若林 恭英

お陰さまでシャンティは2016年、設立35周年という節目を迎え、来し方を振り返り、未来を見据える機会となりました。周年イベントにお招きしたタイ・バンコクのスラムで育ったオラタイさんと、ラオス・ビエンチャンの貧しい家庭で育ったスニターさん。お二人とも子どもの頃に、シャンティが運営する図書館や子どもの家で心の眼を開くことができたことと述懐していました。

二人に共通するのは「忍耐」でした。困難な状況から目をそらさず、逃げないこと、そこから本当の自分の道が開けてくるのだと。これを聞いて思い出したのが、心理カウンセラーである諸富祥彦氏の「どんなときも、人生には、意味がある。一人ひとりの人間のたましいには、見えないミッション(使命)が刻印されている。人生は、いわば、うす暗い森の中を、仲間と共にさまよい歩きながら、自らのミッションと、たまし

いに刻まれたコードを発見していく旅」という言葉でした。今まさにこの二人を目標にスラムで、農村で、はたまた難民キャンプで困難を乗り越えようと努力している若者たちがいます。いつか見えない使命に気づくときがくることを願って。

オラタイさん、スニターさんは共に「今があるのは支援してくださった皆さんがいてくれたからこそ」と心から感謝の気持ちを述べておられました。

シャンティは、今後も困難な地域で暮らす子どもたちの学びを支援してまいります。どうぞ今後ともお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

若林 恭英





1 ターク県の高校に通う奨学生のバタマーさん
2 移民の子どもたちが通うターク県のラーニングセンターでの移動図書館活動
3 ターク県の授与式に集まった奨学生



1 絵本の読み聞かせの様子 © Yoshifumi Kawabata
2 識字教室の参加者たち
3 絵本を楽しむ子どもたち © Yoshifumi Kawabata

現状

2016 年 10 月 プーミポン・アドゥンヤデート国王が崩御され、ワチラロンコーン皇太子が即位しました。国王崩御後の 3 カ月間、国民は喪に服し、お祝い事は全国的に控えられていました。シーカー・アジア財団 (SAF) も、2017 年 2 月に 25 周年を迎える式典を計画していましたが、国王崩御を受けて式典の延期を決定しました。

事業

パヤオ県、ターク県、バンコク・スラム地区の 3 地域において、奨学金事業を実施しました。2～3 月にかけて、奨学金事業担当者が対象地域での家庭訪問を実施し、選考基準に照らし合わせながら奨学生を選定しました。その後、各対象地域の学校教員と連携し、奨学生の選考と申請手続きを進めた結果、中高生 460 人、大学生 26 人の計 486 人に奨学金を支給しました。また 2 月にはニコン・タイランド様とともに、ターク県において奨学生キャンプを開催しました。

10 月には SAF 主催、シャンティ・公益社団法人落

語芸術協会共催による「落語・寄席芸能公演」を開催しました。本公演には、タイ在住の日本人および日本に関心のあるタイ人の方々が 200 人以上参加しました。開催後、タイ国日本人会からのご支援が検討され、PR と共に一部支援にもつながっています。

クラフト事業では、クロントイ・スラム発のブランドを立ち上げるプロジェクトが進行しています。日本のデザイナーと協働し、10 月からの 2 カ月間、新商品のサンプル制作を行いました。また、Readyfor (クラウドファンディングサービス) を活用した資金調達により (公開期間 10 月 28 日～12 月 27 日)、2,332,000 円の寄付を集めることに成功しました。

実績

 図書館活動参加者：32,465 人

 奨学金支給者：486 人

現状

好調な経済成長に反し、与党による野党関係者や人権活動家への弾圧が行われるなど、深刻な政情不安が続いています。政府は、2030 年に先進国の仲間入りを目指し、産業振興や人材育成に力を入れており、教育省が幼稚園から高校までのカリキュラムの改訂や教員養成校の再編に取りかかっています。

事業

バタンバン州の公立幼稚園における幼児教育の質の改善事業では、対象幼稚園の校長および教員ら 86 人に対し、幼児教育の意識向上研修や「おはなし」の研修、「場づくり」の研修などを実施し、のべ 202 人が参加しました。

また日本の保育士をカンボジアに招聘して現場指導を行うほか、カンボジアの行政職員や教員ら 7 人を日本に招き、日本の幼児教育について学ぶ研修を行いました。研修で学んだことを参考に、幼稚園教諭たちは自主的に幼稚園のプログラムを作成しました。

図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセ

ンター (CLC) 事業では、新たに建設された 6 館目の CLC にて、地域住民代表を対象に運営管理のための能力強化研修を実施しました。また、CLC5 館にて週 6 日 7 カ月間開催された識字教室では、参加者全 88 人が無事に受講を修了しました。

伝統文化支援～仏教学校における図書館推進事業では、仏教図書館ワーキンググループとともに各図書館員の巡回指導を行うほか、各対象図書館で移動図書館活動を実施、地域に図書館利用を呼びかけました。

また、スラムのコミュニティ図書館推進事業として、2 つの地域で図書館運営支援を、3 つの地域で移動図書館活動を実施しました。

実績

 図書館活動参加者：349,756 人

 研修会参加者：2,492 人

 学校建設：5 校
図書館・図書室設置：1 館



1 ヱエンカム郡での移動図書館活動の様子
© Yoshifumi Kawabata
2 ヱエンカム郡の小学校
© Yoshifumi Kawabata
3 100 玉そろばんを使って勉強する子ども

現状

2020 年までに後発開発途上国からの脱却を目指す一方、架空の公共投資や使途不明金が出るなど汚職が深刻化しています。

地域格差も広がり、土地の囲い込みや買い占めによる強制移住などの問題も起きています。教育省は 2016 年から 2020 年までの教育開発計画を発行し、都市と農村部の教育格差の是正やラオス語を話せない少数民族の子どもたちへの対応強化、識字力の向上など、教育の質の改善を重視しています。

事業

前年度に引き続き、ラオス北部のルアンパバーン県 ヱエンカム郡において、教育施設改善および指導能力改善事業を実施しました。

施設改善事業では、2015 年対象 3 校の建設が終了、2016 年対象 2 校の建設が開始されました。建設終了した 3 校では学校運営研修会が実施され 24 人が参加、校舎およびトイレの維持管理研修では住民、教員、児童の計 615 人が参加しました。

指導能力改善事業では、読書推進活動研修を実施し、21 小学校、計 36 人の教員が参加しました。研修後はモニタリングを兼ねた巡回指導と移動図書館活動を実施、のべ 9,000 人以上の児童と 400 人以上の教員がサービスを利用し、3,000 冊以上の図書が貸し出されました。

また、行政のトレーナーと 238 人の教員を対象に、指導教材研修会を実施。フラッシュカード（単語や数字、絵が書かれたカード）の活用法に加え、ルアンパバーン教員養成校で活動する青年海外協力隊員の協力を得て、100 玉そろばん（手作り教材）の作り方や使い方研修も実施しました。そして、完成したフラッシュカードを全 68 校に配布しました。

実績

-  図書館活動参加者：9,802 人
-  研修会参加者：752 人
-  学校建設：3 校

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

Myanmar (Burma) Refugees



1 メラマル難民キャンプの図書館
© Yoshifumi Kawabata
2 日本から届いた絵本を読む子ども © Yoshifumi Kawabata
3 コミュニティ図書館での活動の様子
© Yoshifumi Kawabata

現状

2016 年 10 月、タイとミャンマー両政府合意のもとでの難民帰還が初めて行われ、20 世帯 71 人が祖国へ帰りました。しかし、1984 年に難民キャンプが設立されてから 30 年以上経った現在も約 10 万人の難民が生活しています。帰還の動きがある一方、教育分野への国際支援の減少や NGO の撤退が相次ぎ、キャンプ内で自殺者が出るなど、人々の精神的不安も高まっています。

事業

読書推進普及事業（第 5 フェーズ）を実施しました。7 つの難民キャンプに設置された 21 の図書館でコミュニティ図書活動を実施、利用者数は 41 万（子ども約 26 万、大人約 15 万）を超えました。

また、図書館にアクセスしにくい地域に暮らす人々に対しては、「図書館ユースボランティア」の若者によるお話し会を実施しました。キャンプの学生を中心に構成される「図書館ユースボランティア」の活動は、図書サービスの範囲を広げるのみならず、より多くの

住民との関係性を築き、さまざまなニーズを把握するのに大いに役立ちました。

また、学校教育における読書推進活動として、28 校の図書コーナーの整備と、移動図書館活動を実施しました。これにより、多くの児童・生徒の学習の向上に貢献しました。

計画会議、四半期会議、1 年間を振り返る年次会議では、図書館活動の課題だけでなく、利用住民が抱える多くのニーズも共有されました。その結果、新たな取り組みが提案され、住民のニーズにより適した活動を行うことができました。

事業運営面では、2019 年 3 月に公的資金を活用した事業が終了することを視野に、今後の事業の方向性について、キャンプ関係者を交えて定期的な協議を行いました。

実績

-  絵本・紙芝居出版：2 タイトル 3,000 冊
図書館活動参加者：414,854 人
-  研修会参加者：451 人



アフガニスタン

Afghanistan



- 1 建設した学校の校舎前に集まる生徒たち
- 2 子ども図書館での行事の様子
- 3 図書館を利用する子どもたち

現状

学校は 16,000 校に増えたものの、半数はいまだ校舎がありません。純就学率は約 70% に達しましたが、350 万人の子どもは学校に通っておらず、教員の約 7 割は無資格です。

学校は反政府武装勢力のターゲットにされることもあり、シャンティの事務所があるナンガハル州ではタリバンと IS の勢力が拡大しており、2015 年 12 月には自爆テロによりシャンティが支援した図書館が破壊されました。

事業

学校建設事業では、カブール市にて 1 校舎 12 教室を建設しました。2017 年 3 月下旬の新学期からは、児童 1,551 人が快適な教室で学べる予定です。

学校図書室普及事業では、ナンガハル州およびカブール市ともに、目標としていた月間貸出数 350 冊を達成できました。また、カブール市 3 校とナンガハル州 8 校、計 11 校に図書室を設置し、教員研修と図書館員研修を各 2 回行いました。このほか、絵本 5 タイ

トル、紙芝居 2 タイトルを出版、品切れとなっていた絵本 15 タイトルの再版を行いました。

児童読書推進事業では、マザリシャリフなどにある 4 つの公共図書館に児童図書コーナーを設置、図書館員に対して児童サービスについての研修を行いました。

ジャララバード事務所の 1 階で子ども図書館を運営し、自由読書や本の貸出、読み聞かせ、お絵描きや詩の朗読、誕生日や女性の日を祝う行事なども開催しました。開館日 234 日間で、利用者数 3 万人以上、貸出数 12,000 冊以上を数え、1 日あたりの利用者数は 130 人を超えました。

また、2015 年 11 月に M 7.6 の大地震が発生し、ナンガハル州およびクナール州の被災者 500 世帯約 3,500 人に食糧と毛布を配布しました。

実績

- 絵本・紙芝居出版：22 タイトル 48,800 冊
図書館活動参加者：30,611 人
- 研修会参加者：621 人
- 学校建設：1 校
図書館・図書室設置：10 館



ミャンマー

Myanmar



- 1 図書館員の出し物に見入っている子どもたち
© Yoshifumi Kawabata
- 2 バゴ管区での移動図書館活動の様子
© Yoshifumi Kawabata
- 3 改善前の寺院学校での授業風景 © Yoshifumi Kawabata

現状

2016 年 4 月、国民民主連盟 (NLD) による新政権が発足し、「アジア最後のフロンティア」として経済発展する一方で、発展の波に残される貧困層や社会的弱者、難民の帰還問題、多様な民族の共存などの課題を抱えています。小学校を卒業できる子どもは全体の 74% に留まり、中学校は 64% の子どもしか就学できていません。貧困層への教育機会の提供と初等教育の質の改善が問われています。

事業

寺院学校改善事業では、3 つの学校建設が完了し、985 人の児童が安全かつ快適な校舎を得ました。また、前年度対象の 3 校に各 200 冊以上の図書を配布しました。

学校教育以外の学習を支援する教育事業では、「学校に通っていない子どものためのライフスキル教室」、「学校を途中で退学した子どものための夜間小学校」を実施するほか、地域学習センターでの読書やお絵描き、仏教教育や地域美化運動を行いました。

公共図書館改善事業では、タヤワディ県 8 館、ピー県 6 館の公共図書館を対象に、児童サービスを継続的に実施できるようフォローアップ活動を行いました。タヤワディ県各図書館には 383 冊、ピー県各図書館には 232 冊の図書を寄贈し、それぞれの図書数が 1,052 冊、1,443 冊となりました。タヤワディ県では、3 輪オートバイを活用した移動図書館活動も開始しました。

児童図書出版改善事業では、ミャンマー作家協会との共催による「平和」をテーマとした絵本コンクールを開催、受賞した 5 作品が出版されることになりました。

また、2017 年 3 月に開催する児童図書出版研修会の準備を日本の専門家と行い、教育図書の翻訳出版に向けた翻訳コンテストも開催されました。

実績

- 絵本・紙芝居出版：5 タイトル 29,120 冊
図書館活動参加者：62,948 人
- 研修会参加者：98 人
- 学校建設：3 校

！緊急救援

Emergency Relief



1



2

〔ネパール大地震〕
1 建設した校舎の前で
2 図書室で絵本を読む子ども



3



4

〔熊本地震〕
3 避難所でのサロン活動
4 避難所となった小学校での聞き取り調査

ネパール大地震被災者支援事業

2015 年度より引き続きネパール大地震被災者支援事業を実施しました。

今後はじまる復興事業を念頭に置き、学校建設の例を示すことはできないかと関係者やエンジニアと議論を進め、ヌワコット郡の 2 つの小学校（合計生徒数約 200 人）に対し、恒久学校（1 棟 3 教室を 2 棟）の建設を実施しました。新憲法制定に起因するインド国境の封鎖による影響を受けましたが、国境封鎖が解除されてすぐに建設資材の購入をはじめ、できるだけ早く子どもたちが安心して勉強できる環境の整備に努めました。

ネパール政府による復興事業がまだ十分にはじまっていない時期に、新しい学校校舎が再建されたことは、学校やコミュニティにとって復興の第一歩として大きなことでした。学校によっては、これを機により良い学校運営を行い、更に大きな学校にアップグレードするための申請を郡行政に行うことも検討しています。このように早期復興事業を行っていくことは、学校建設という物理的な支援のみにとどまらず、復興がはじ

まっていくのだという、前向きなメッセージを村の多くの人々に示すことができました。皆さまの多大なご支援により、無事本年を持ちまして完了することができました。

今後は新ネパール事務所としてネパールの復興のお手伝いをしていきます。

熊本地震被災者支援事業

2016 年 4 月 14 日および 16 日未明に発生した熊本地方を震源とする地震において、熊本県玉名市の「れんげ国際ボランティア会（ARTIC）」と連携し、熊本市内の避難所で支援活動を行いました。野菜たっぷりの炊き出しや食事の提供など栄養面での支援、避難所と地域の銭湯を巡回する定期的な入浴送迎と玉名市への温泉旅行など衛生面での支援、避難所での定期的なお茶会の開催といった集いの場づくり支援を通じて、避難所の方々が、少しでも安心して過ごせるような活動を行いました。

東日本大震災被災者支援活動

Response to the Great East Japan Earthquake

気仙沼事務所では、復興まちづくりのしくみの地元定着化と必要な人材の育成、地元職員による「NPO 法人浜わらす」の立ち上げの支援を行いました。「まちづくり支援」では、階上地区まちづくり協議会によるまちづくり計画提言書の作成および市への提出をサポート、「漁業支援」では、漁業協働グループ「蔵内之芽組」における養殖加工場の支援を通じた浜の活性化を、「子ども支援」では、自然体験「あつまれ、浜わらす！」のプログラムを通じ、震災後、子どもたちが再び海と触れ合い生きる力を育むことができました。2016 年 5 月をもちまして気仙沼での活動を終了しました。

岩手事務所では、2016 年内で山田町、大槌町、大船渡市での支援活動が終了、移動図書館車は公共図書館などへ、それぞれの活動は各市町の公共図書館あるいは地域の読み聞かせグループなどへ引き継がれました。この間、山田町では町立図書館が行う移動図書館のサポートを、大槌町では地元のボランティア組織と仮設団地での文庫の活動を、大船渡市では市立図書館や地域の団体と図書活動の話し合いを行うなど、丁寧な引継ぎを心がけました。また、陸前高田市での移動図書館活動は 9 月で終了し、仮設団地集会所でのコミュニティ図書室の運営を継続しています。こちらも 2017 年 7 月で終了する予定で、地域へ蔵書の寄贈などを進めています。

山元事務所では、町の復興状況や利用の推移をみて、宮城県山元町と福島県南相馬市での移動図書館での貸出を 2017 年 3 月に終了する予定です。それに向け、それぞれの活動や車輛・蔵書を含め、地域への引き継ぎを丁寧に進めていくよう心がけました。一方、南相馬市の小高区は 2016 年 7 月に一部地域を除き避難指示が解除されましたが、帰還された方々を中心とした今後の復興まちづくりへのサポートとして、チャリティ寄席などのイベント実施やサロン（お茶会）開催をお手伝いしました。笑い、ひと息つき、思い出を懐かしむ、その楽しみや喜びの場を提供することができました。



気仙沼事務所／NPO 法人浜わらすによるワカメの刈り取りの様子



岩手事務所／移動図書館車を遠野市に寄贈



山元事務所／山元移動図書館活動の様子



シャンティへのさまざまな参加方法！

日本からアジアの子どもたちに「絵本を届ける運動」

読み書きを習得する助けとなり、文化や伝統を学び、世界を知るきっかけになる絵本を届けるため、日本の絵本に翻訳シールを貼って送る「絵本を届ける運動」を行っています。

2016年は18,107冊をカンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマー、タイに送りました。

2017年は18,280冊を目標にしています。

「絵本を届ける運動」へお申し込みいただくと、絵本1冊と翻訳シールや説明書などが入った絵本セット（2,500円）が届きます。



絵本を届ける運動

検索

お買い物で現地を支援「クラフトエイド」

シャンティは、女性が子どもの教育資金のために手仕事でつくる製品を販売するフェアトレード事業「クラフトエイド」を行っています。タイ・ラオス・カンボジア・アフガニスタン・ミャンマーで、それぞれの民族の特長を活かし、共にもの作りをしています。商品を作っているのは、山岳少数民族や長い紛争で傷つ

いた人々、都市部のスラムに暮らす人々です。そんなクラフトエイドの商品を購入することで、女性の自立を助け、子どもたちが教育を受けられる機会が増えていきます。

ご注文は、ネットショップまたは無料配布しているカタログから。

クラフトエイド

検索

Facebook アカウントはこちら！

<https://www.facebook.com/SVAcraftaid/>



クラフトエイド
新ブランドカード



2016年カタログ



北タイの小さな村の軒先で刺繍を刺す（モン族）

CRAFT AID
SVA'S FAIR TRADE PROJECT.

本や不要品を送って「もので寄付するプロジェクト」

本やCD、図書カードや金券、書き損じはがきなど、お家に眠っている“お宝”はありませんか？ご不要になったものを送ることで、子どもたちの教育支援になる「もので寄付するプロジェクト」を行っています。

本やCD・DVD全般を扱う「ブックオフオンライン」や、ビジネス書や医学書など専門書を高値で買い取りしている「バリューブックス」、アクセサリやブランド品、携帯電話、商品券などを扱う「お買取屋さん目黒山手通り店」と提携しています。各業者が査定額に寄付を上乗せした金額がシャンティの活動への寄付になります。

■参加者の声

- 不要になった本やCDを整理することを兼ねてボランティアできるので、とても重宝しています。（東京都 S 様）
- 本をただ捨てるのはもったいないという気持ちと、途上国の子どもたちを支援したいという気持ちの両方を満たせるので気に入っています。（愛知県 M 様）



継続的に活動を支える「アジアの図書館サポーター」

本を知らない子どもたちに本を読む機会を届けるためには、中長期的な支援が必要です。毎月1,000円（1日33円）から継続的にご寄付いただく「アジアの図書館サポーター」を募っています。

毎月決めた額が銀行口座やクレジットカードから自動的にご寄付いただだけ、定期的に子どもたちの写真つきメッセージカードやニュースレターが届きます。

2016年、新たに113人からお申し込みいただき、2016年末時点で1,360人が活動を支えてくださっています。

■アジアの図書館サポーターからのメッセージ

- 森山涼子さん
（会社員/埼玉県）

図書館に置いてあった「絵本を届ける運動」のパンフレットで、本を通じたボランティア活動があることを知りました。体験できないことや行くことが難しい国のことを絵本から知り、自分の世界が広がった感じがしました。アジアの子どもたちにも絵本から多くの夢や希望を持ってほしいです。



活動への参加をご希望の方はお気軽にご連絡ください

シャンティの活動には、さまざまな形でご参加いただけます。郵便局や銀行、クレジットカードでもご寄付を受け付けています。東京事務所でのボランティアやインターンも募集しています。お気軽にお問い合わせください。

●TEL：03-5360-1233 ●Email：info@sva.or.jp

シャンティ国際ボランティア会

検索

シャンティにご寄付いただくと税制上の優遇措置が受けられます。

公益社団法人のシャンティへご寄付いただくと、税制上の優遇措置が受けられます。所得税・相続税・法人税などから一定額が控除されます。詳しくは、税務署や税理士にお問い合わせいただくか、シャンティのウェブサイトをご覧ください。

個人の皆さまからのご支援・ご協力

ご寄付

シャンティの活動は多くの方々に支えられています。毎月の継続的なご寄付はもちろん、夏と冬の募金キャンペーンや募金箱を通じて、2016年度は5,079人の個人と2,112団体からアジアの子どもたちのためにご寄付いただきました。

ボランティア、インターン、プロボノのご支援

- ・絵本を届ける運動
事務所ボランティア／16人、翻訳ボランティア／4人
- ・クラフトエイド
事務所ボランティア／5人
- ・東京事務所インターン
広報課／5人、クラフトエイド／1人



東京事務所でのボランティア作業の様子

遺贈・相続財産によるご寄付

アジアの子どもたちに教育の機会を届けるため、財産に想いを託したご寄付をいただいています。亡きお父様から相続された財産の一部をご寄付くださった方から「教師として子どもの教育に尽くした父も喜んでくれると思います。」とお言葉をいただきました。

- ・プロボノの皆さま
FUJI TATE P (フジタテペ) さん
aurinco (アウリンコ) さん
松村 伸一さん 橋本 裕貴さん
原 麻子さん 石川 未記さん
西村 由美子さん 三澤 真理さん
牧 純子さん 大久保 武さん
NPO 法人二枚目の名刺 NPO サポートプロジェクト
のメンバー／9人



二枚目の名刺 NPO サポートプロジェクトのメンバーと
シャンティスタッフ

連携・掲載・開催実績

関係機関との連携

外務省

外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」を通じ、カンボジアで農村地域におけるコミュニティラーニングセンター普及事業と、ミャンマーで読書推進・図書館改善事業、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプでコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業を実施しました。

ジャパン・プラットフォーム (JPF)

JPF の助成を受け、アフガニスタン・ナンガハル州およびクナール州での越冬支援と、アフガニスタン・パキスタン人道支援・初等教育改善事業を実施しました。

国際協力機構 (JICA)

JICA「草の根技術協力事業」を通じ、カンボジアで公立幼稚園における幼児教育・保育の質の改善事業と、ラオスで少数民族の子どもたちのための就学前・初等教育における指導能力改善事業を実施しました。

活動への後援

「絵本を届ける運動」と「アジアの図書館サポーター」は、文部科学省、(公社) 日本図書館協会、(公社) 読書推進運動協議会に後援いただいています。

メディア掲載実績

新聞 (198 件)

- 04.22 / 読売新聞 (国際版)「点描アジア スラム育ちの外交官」
- 04.13 / 毎日新聞「海外難民救援金 1080 万円を 24 団体に贈呈」
- 09.15 / 東京新聞「国際識字デーイベント『読み書きの力が、生きる力に』」
- 09.29 / 信濃毎日新聞など「途上国の子に母語の絵本を」
(※共同通信社による配信 全国地方紙 32 媒体で掲載)
- 12.13 / 朝日新聞「ひと オラタイ・プーブンラップ・グナシーランさん」

雑誌 (23 件)

- 03.30 / オルタナ 44 号「救済の寺院学校」
- 05.02 / ソトコト 6 月号「まだ本を知らないアジアの子どもたちへ、10 万冊の絵本を届けたい!」
- 11.19 / pumpkin 12 月号「フェアトレード&エシカルな贈り物」

テレビ (6 件)

- 05.31 / NHK 総合 (全国)「あの日 わたしは～証言記録 東日本大震災～」宮城県気仙沼市 笠原一城さん
- 06.27 / NHK BS1「国際報道 2016」帰還へ揺れるミャンマー難民
- 11.20 / NHK 総合「これでわかった!世界のいま」スラム発ブランドを支える日本人デザイナー

ウェブメディア (13 件)

- 04.04 / iza ニュースまとめ (産経デジタル)「日本の NGO がアフガニスタンの学校に桜植樹」
- 06.08 / 朝日新聞デジタル他 全 30 媒体「タイ国境 ウンピナム難民キャンプ『サッカーフェスティバル』開催」
- 12.10 / 日本経済新聞 電子版「貧困層 10 万人 バンコク最大のスラム、親子で訪問」

その他 (35 件)

- 02.11 / FM ヨコハマ「E-ne!」 / HAND IN HAND ～走れ東北! 移動図書館プロジェクト

イベント開催・実施実績

10 回 170 人参加



設立 35 周年記念イベントの様子 (2016 年 12 月 10 日)



法人名 公益社団法人シャント国際ボランティア会
設立 1981年12月10日
社団法人登記日 1999年8月19日
公益社団法人移行登記日 2011年1月4日

足立 房夫	一般社団法人協力隊を育てる会 顧問 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 顧問
阿部 豊淳	宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 常務理事
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺 貫主 特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝	荒川区職員労働組合 顧問
松野 宗純	福井県・地藏院東堂

岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役
大菅 俊幸	曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子	かまくらさちこ株式会社 代表取締役
長谷 洋二	株式会社Publico 代表取締役CEO
手束 耕治	カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

会 長	若 林 恭 英	長野県・安楽寺 住職
副 会 長	神 津 佳 予 子	有限会社ケアアンドアイ 代表取締役社長
副 会 長	三 部 義 道	山形県・松林寺 住職
専務理事	岡 本 和 幸	千葉県・真光寺 住職
常務理事	市 川 齊	シャンティ国際ボランティア会 常勤役員
常務理事	秦 辰 也	近畿大学国際学部 教授
常務理事	早 坂 文 明	宮城県・徳本寺 住職
理 事	有 馬 嗣 朗	山口県・原江寺 住職
理 事	下 澤 嶽	静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科 教授
理 事	関 尚 士	シャンティ国際ボランティア会 事務局長
理 事	茅 野 俊 幸	長野県・瑞松寺 住職
理 事	長倉シュツワ牧子	株式会社FM BIRD 代表取締役社長
理 事	中 村 紀 子	東京都消費者月間実行委員会 事務局長
理 事	八木澤 克昌	シャンティ国際ボランティア会 アジア地域ディレクター兼 ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所 所長
理 事	渡 邊 智 恵 子	株式会社アバンティ 代表取締役
監 事	野 中 茂	野中公認会計士事務所 公認会計士
監 事	増 田 和 生	元自治労大阪府本部 特執

正力松太郎賞(1984年)	東京都豊島区感謝状(1995年)	宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
ソロプチミスト日本財団賞(1985年)	防災担当大臣賞(2004年)	ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
外務大臣賞(1988年)	兵庫県知事感謝状(2005年)	
毎日国際交流賞(1994年)	第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)	※2016年12月末日現在

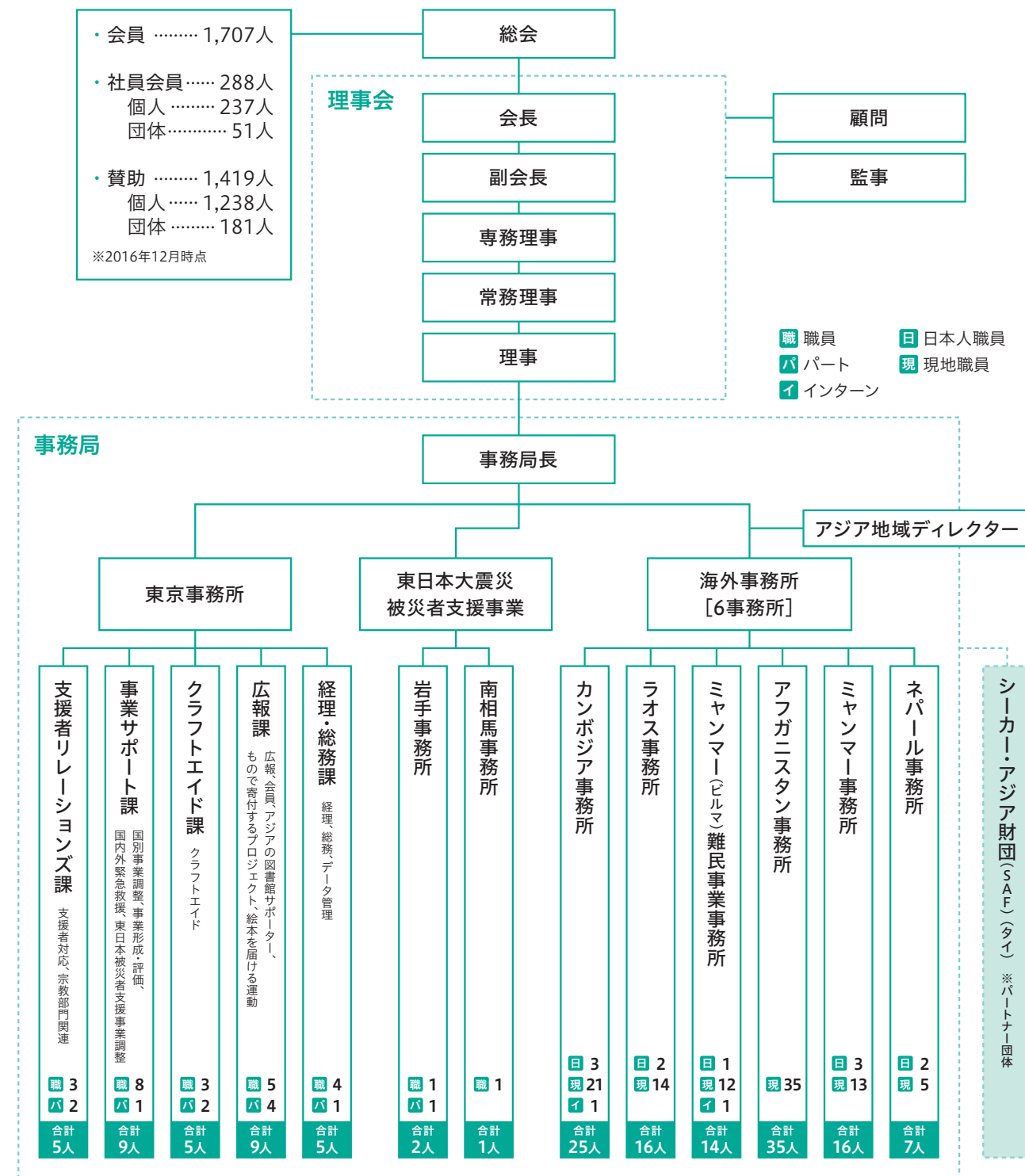
SDGs市民社会ネットワーク【一般正会員】／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】／NGO・外務省定期協議会【連携推進委員会】／NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】／NGO労働組合国際共同フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【理事】／紙芝居文化推進協議会【会員】／カンボジア市民フォーラム【団体会員・世話人】／教育協力NGOネットワーク（JNNE）【事務局長】／国際協力NGOセンター（JANIC）【理事】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助委員】／ジャパン・プラットフォーム（JPF）【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】／震災がつつま全国ネットワーク（震つつま）【会員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議【参加団体】／東京ボランティア・市民活動センター【運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク【団体会員】／日本NPOセンター【会員】／日本図書館協会【会員】／日本ファンドレイジング協会【団体会員】／日本UNHCR-NGOs評議会（J-FUN）【団体会員】／防災・減災日本CSOネットワーク（JC-DRR）【参加団体】／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）【団体会員】／ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク【常任委員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／仏教NGOネットワーク（BNN）【副理事長、事務局長】／公益財団法人庭野平和財団【理事】／全日本仏教会支援検討委員会【委員】／NGO安全管理イニシアティブ（JaNISS）【世話人】／NGO-JICA協議会【コーディネーター】

- タイ Bangkok World Book Capital 2013【参加】／ Committee of Children【会員】／ The Astrid Lindgren Memorial Award 2014【参加】
- カンボジア Cooperation Committee for Cambodia(CCC)【会員】／ NGO Education Partnership(NEP)【会員】／カンボジア日本人会 (JACAM)【会員】／カンボジア市民フォーラム【現地世話人】／ Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)【共同代表】
- ラオス International NGO Network【会員】／ Japanese NGO Meeting (JANM)【参加】
- ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand(CCSDPT) (難民支援事業調整委員会)【会員】
- アフガニスタン Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)【会員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク (JANN)【会員】
- ミャンマー Japan NGOs Network — Myanmar (JNN-Myanmar)【会員】
- 全体 Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)【理事】／ The Asia Disaster Reduction & Response Network (ADRRN)【Associate Member】

※2016年12月末日現在

事務局員 (専務理事、常務理事除く、SAF、インターン含まず)	149人
日本人職員	49人
現 地 職 員	100人

※2017年4月1日時点



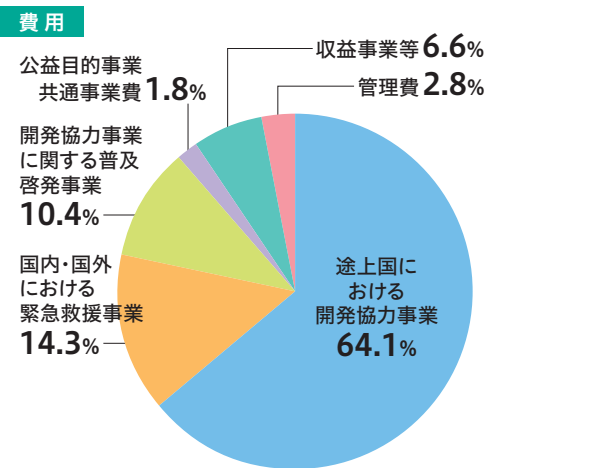
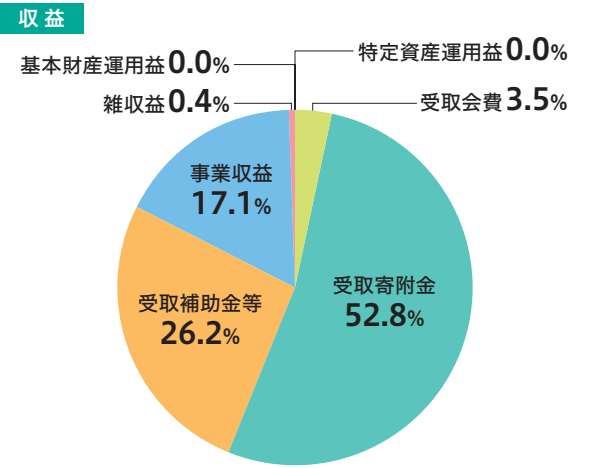
会計報告

貸借対照表

2016年12月31日現在

資産の部		(単位：円)
1.流動資産（現預金等）	113,836,979	
2.固定資産		
（1）基本財産	50,000,000	
（2）特定資産（特定預金）	319,861,090	
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	9,506,137	
固定資産合計	379,367,227	
資産合計	493,204,206	
負債の部		
1.流動負債（預り金等）	10,866,973	
2.固定負債（退給引当金）	23,572,761	
負債合計	34,439,734	

正味財産の部	
1.指定正味財産	345,666,989
2.一般正味財産	113,097,483
正味財産合計	458,764,472
負債、正味財産合計	493,204,206



正味財産増減計算書

2016年1月1日から2016年12月31日まで

〈一般正味財産の部〉	
経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	50,000
特定資産運用益	54,701
受取会費	24,941,000
受取寄附金	376,187,712
受取補助金等	186,658,715
事業収益	121,575,835
雑収益	2,663,838
経常収益合計	712,131,801
(2) 経常費用	
①事業費	
公益目的事業1（途上国における開発協力事業）	
タイ事業費	15,053,924
カンボジア事業費	95,192,736
ラオス事業費	51,211,164
ミャンマー（ビルマ）難民事業費	43,015,127
アフガニスタン事業費	132,067,492
ミャンマー事業費	49,292,486
ネパール事業費	2,230,073
海外事業支援費	55,781,407
アジアの図書館サポーター事業費	4,098,510
公益目的事業1 合計	447,942,919
公益目的事業2（国内・国外における緊急救援事業）	
東日本大震災支援事業費	59,081,858
緊急支援費	41,072,566
公益目的事業2 合計	100,154,424
公益目的事業3（開発協力事業に関する普及啓発事業）	
絵本を届ける運動事業費	37,747,986
広報事業費	35,098,237
公益目的事業3 合計	72,846,223
公益目的事業共通事業費	12,236,096
公益目的事業合計	633,179,662
収益事業等	
クラフトエイド事業費	36,282,732
業務委託費（コンサル）	0
本で寄付するプロジェクト事業費	9,447,069
収益事業等合計	45,729,801
管理費合計	19,629,650
経常費用合計	698,539,113
評価損益等調整前当期経常増減額	13,592,688
評価損益等計	0
当期経常増減額	13,592,688

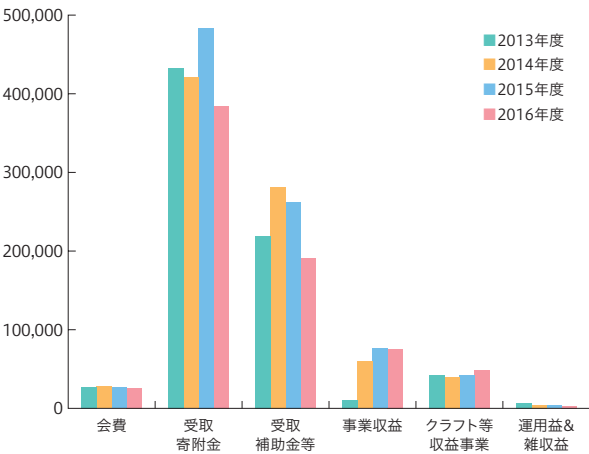
経常外増減の部	
経常外収益計	638,768
経常外費用	12,940,498
当期経常外増減額	▲ 12,301,730
税引前当期一般正味財産増減額	1,290,958
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	1,220,958
一般正味財産期首残高	111,876,525
一般正味財産期末残高	113,097,483

〈指定正味財産の部〉		(単位：円)
基本財産運用益、特定資産運用益	104,701	
受取補助金	249,954,849	
一般正味財産への振替額	▲ 462,102,295	
当期指定正味財産増減額	▲ 19,463,452	
指定正味財産期首残高	365,130,441	
指定正味財産期末残高	345,666,989	

正味財産合計	458,764,472
--------	-------------

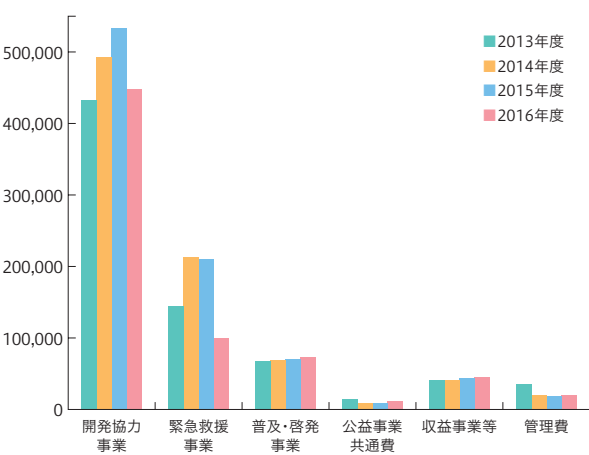
年度別収益推移表（一般正味財産）

(単位：千円)				
収益	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
会費	27,033	27,255	25,903	24,941
受取寄附金	423,870	411,928	473,242	376,188
受取補助金等	214,922	275,825	256,498	186,659
事業収益	10,492	58,205	74,644	73,539
クラフト等収益事業	41,465	39,170	41,762	48,037
運用益 & 雑収益	6,426	4,628	3,587	2,769
合計	724,208	817,011	875,636	712,133



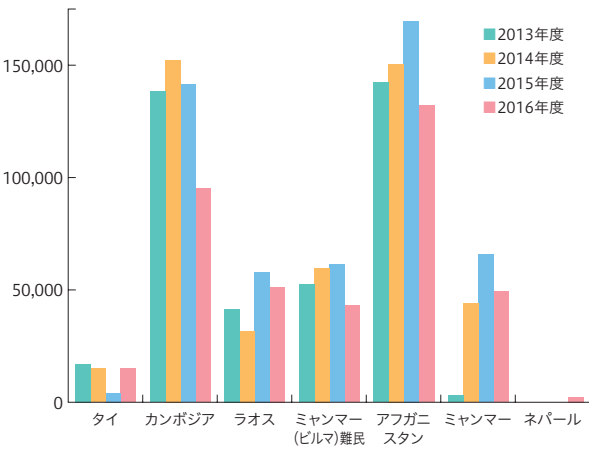
年度別費用推移表

(単位：千円)				
費用	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
開発協力事業	432,331	492,829	532,849	447,943
緊急救援事業	145,264	213,368	210,954	100,154
普及・啓発事業	67,440	69,250	70,163	72,846
公益事業共通費	14,627	9,436	8,321	12,236
収益事業等	40,799	41,228	44,107	45,730
管理費	35,077	20,269	18,140	19,630
合計	735,538	846,380	884,534	698,539



年度別開発支援事業費推移表

(単位：千円)				
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
タイ	16,929	15,060	4,024	15,054
カンボジア	138,349	152,425	141,345	95,193
ラオス	41,496	31,711	57,945	51,211
ミャンマー（ビルマ）難民	52,321	59,846	61,392	43,015
アフガニスタン	142,226	150,431	169,637	132,067
ミャンマー	3,020	43,995	65,859	49,292
ネパール				2,230
合計	394,341	453,468	500,202	388,062



〔独立監査法人の監査報告書抜粋〕

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

田中義幸公認会計士事務所

平成 29 年 2 月 23 日 公認会計士 田中義幸

公益社団法人シャントイ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会

Shanti Volunteer Association

2016年度年次報告書

発行日 2017年6月1日

発行人 若林恭英

発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館 2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

WEB www.sva.or.jp

Email info@sva.or.jp

郵便振替口座 00150-9-61724

「年次報告書」制作にご協力いただいた方々

執筆協力 藤原 千尋（フリーライター）

編集 大谷 薫子（モ・クシュラ株式会社）

デザイン 佐藤 理樹（アルファデザイン）

写真 川畑 嘉文（フォトジャーナリスト）

瀬戸 正夫（報道写真家）

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。

詳しくは当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。